

## Group 1. Japanese A Literature SL/HL

### ねらい

「言語と文学」のすべての科目はいずれも、以下を学習のねらいとしています。

1. さまざまな媒体や形式、異なる時代、スタイル（文体）、文化からの多様なテキストに触れる
2. 話す、読む、書く、見る、発表する、およびパフォーマンスのスキルを伸ばす
3. 解釈や分析、評価のスキルを伸ばす
4. テキストのフォーマルで美的な性質への感性を磨き、またそれらがどう多様な応答や複数の意味をもたらすのかを鑑賞できるようになる
5. テキストと多様なものの見方、文化的文脈、地域とグローバルな問題との関わりについて理解を深め、またそれらがどう多様な応答や複数の意味をもたらすのかを鑑賞できるようになる
6. 「言語と文学」と他の教科の関係性への理解を深める
7. 自信をもち、創造的な方法でコミュニケーションをとり、協働する
8. 言語と文学に対して、生涯にわたって関心と喜びをもつように促す

### 評価目標

1. 知識、理解、解釈
  - 多様なテキスト、作品、およびパフォーマンス、それらの意味と含意
  - テキストが書かれた文脈と受けとられる文脈
  - 文学的、文体的、修辭的、視覚的、そしてパフォーマンス技術的な要素
  - テキストタイプと文学形式の特徴
2. 分析と評価
  - 言語の使い方がどう意味を生成するか
  - 文学的、文体的、修辭的、視覚的、または演劇技術の使用法と効果
  - さまざまなテキスト間の関係性
  - 人間が抱える問題に対して、テキストがどのような見解をもたらしているか
3. コミュニケーション
  - 明確で論理的、説得力のある方法で考えを表現する
  - さまざまなスタイルや言語使用域（レジスター）を用い、多様な目的と状況に応じて表現する

・考え、感情、人物、雰囲気のパフォーマンスを通じて表現する（「文学とパフォーマンス」のみ）

### 玉川アセスメント

CRITERION	LEARNING OBJECTIVES
<b>A.</b> 知識、理解、解釈	生徒ができるスキル: <ul style="list-style-type: none"> <li>作品に関する知識が備わっていて理解に結びついている</li> <li>作品を参照し関連する資料や作品からの例や引用を用いて解釈を裏付けている</li> <li>作品に対する批判的思考力と独創性を示す</li> <li>作品の類似点と相違点を分析する</li> </ul>
<b>B.</b> 分析と評価	生徒ができるスキル: <ul style="list-style-type: none"> <li>作者の選択がどのように意味を形成するかを分析し評価する</li> <li>作品から例や引用を適切に提示する</li> <li>文学的特徴に基いた分析と評価を行う</li> <li>分析と評価のスキルを利用して比較・対比等を行う</li> </ul>
<b>C.</b> 構成と焦点	生徒ができるスキル: <ul style="list-style-type: none"> <li>設問や課題に対して理解を示している</li> <li>考えに一貫性があり焦点が絞れている</li> <li>意図に沿った効果的な文章の構成を行う</li> <li>議論の展開が効果的に行えている</li> </ul>
<b>D.</b> 言語	生徒ができるスキル: <ul style="list-style-type: none"> <li>明確で、簡潔で、正確な言葉遣いができている</li> <li>口述でも記述においても適切なレジスターとスタイルを選択している</li> <li>明確で論理的、説得力のある方法で考えを表現する</li> </ul>

LIST OF TITLES	
YEAR 1	YEAR 2
詩	『谷川俊太郎詩集』（谷川俊太郎）
小説	『GO』（金城一紀）、『沈黙』（遠藤周作）、『山月記・李陵』（中島敦）、 【『蜃気楼・或阿呆の一生・歯車』（芥川龍之介）】、★『変身』（カフカ）、 ★『異邦人』（カミュ）、【『博士の愛した数式』（小川洋子）】、 【★『わたしを離さないで』（カズオ・イシグロ）】、
戯曲	★『人形の家』（イプセン）、『鹿鳴館』（三島由紀夫）
評論	『日本語が亡びるとき』（水村美苗）
グラフィック・ノベル	【『夕凧の街・桜の国』（こうの史代）】
※★があるのは翻訳文学、【 】で示したものは、HL でのみ扱う作品。	

ASSESSMENT TYPE	COMPONENT	IBDP WEIGHT %
<p align="center"><b>Internal Assessment</b></p>	<p><b>Individual Oral (個人口述)</b>  概要＝教員と1対1の個人口述  時間＝15分(発表10分、質疑応答5分)</p>	<p><b>SL 30%</b>  <b>HL 20%</b></p>
<p align="center"><b>External Assessment</b></p>	<p><b>1. Paper 1 Literary Analysis (文学分析)</b>  概要＝所見の課題文について文学分析を書く。  SL：1つの課題文、HL：2つの課題文。  時間＝SL：1時間15分、HL：2時間15分</p> <p><b>2. Paper 2 Comparative Essay (比較小論文)</b>  概要＝既習2作品を比較し、小論文を書く。  時間＝1時間45分</p> <p><b>3. HL Essay (HL小論文)</b>  概要＝既習作品について、小論文を書く。  HLのみの課題  字数＝2400～3000字</p>	<p><b>SL 35%</b>  <b>HL 35%</b></p> <p><b>SL 35%</b>  <b>HL 25%</b></p> <p><b>HL 20%</b></p>